

追悼



故原耕平先生略歴

(昭和5年3月13日生～平成28年7月3日没)

<略歴>

昭和30年 3月 長崎大学医学部卒業
昭和31年 4月 長崎大学大学院医学研究科入学
昭和35年 3月 医学博士学位授与(長崎大学)
昭和35年 7月 長崎大学医学部第二内科助手
昭和38年10月 長崎大学医学部第二内科講師
昭和41年 3月 ケニア Rift Valley Provincial General Hospital 留学
昭和42年 6月 長崎大学第二内科助教授
昭和47年10月 英国 Common Cold Research Center 文部省在外研究員
昭和49年 6月 長崎大学第二内科第五代教授
昭和54年 9月 長崎大学医学部付属看護学校長併任
平成 2年10月～平成 6年 9月 長崎大学医学部長
平成 7年 3月 長崎大学医学部教授定年退官
平成 7年 4月 長崎大学医学部名誉教授

<学会活動>

●日本腎臓学会
昭和50年12月 5日～平成 7年 3月31日 学術評議員
昭和63年10月14日～平成 7年 3月31日 理事
平成 6年 4月 1日～平成 7年 3月31日 法人評議員
平成 7年 4月 1日～平成12年 3月31日 功労会員
平成12年 4月 1日～平成28年 7月 4日 名誉会員
●委員会活動
平成元年11月10日～平成 4年12月 4日 学術委員会
平成 4年11月 4日～平成 7年 3月31日 財務委員会

<学会長>

昭和58年12月 第16回九州人工透析研究会
昭和62年 5月29～30日 第16回西部学術大会会長：
長崎市公会堂・市民会館

<その他所属学会の理事>

日本胸部疾患学会, 日本結核病学会, 日本感染症学会, 日本化学療法学会, 日本マイコプラズマ学会, 日本 DDS 学会, 日本臨床生理学学会, 日本環境感染学会, 日本臨床微生物学会

<受賞歴>

平成 6年 志賀潔・泰佐八郎記念賞
平成11年 長崎新聞文化賞 平和福祉部門
平成21年 瑞宝中綬章

原 耕平先生を偲んで

長崎腎病院院長
原田孝司

日本腎臓学会名誉会員および長崎大学医学部名誉教授である原 耕平先生は、5年前から前立腺癌で闘病生活をなさっていましたが、闘病の甲斐もなく平成28年7月3日に享年86歳で逝去されました。第二内科医局の忘年会の御挨拶で、癌の告知を受け治療なさっていると話になられたことが大変印象深く思い出されます。偉大な原先生を亡くしたことは、同門・医局員にとって大きな悲しみであり、心より哀悼を申し上げます。

原先生は、昭和30年長崎大学医学部を卒業後、細菌学教室の大学院医学科に進学され、医学博士学位授与されています。その後、第二内科の助手、講師を経て、ケニアと英国に留学され昭和49年に長崎大学第二内科の第五代教授になられ、その後20年10カ月を教授としてお勤めになられました。教授になられた当初は学園紛争に大変ご苦労されたようです。その後、第二内科医局を呼吸器、消化器、循環器、腎臓のグループに分けて組織され、グループごとに積極的な研究と臨床のご指導をなされました。特に呼吸器感染症分野では多くの業績を残されています。医局員には医師としての道を温かく、時には厳しく指導なさいました。先生は夜遅くまで医局で文献をお読みになり、原稿をお書きになったり、医局員の原稿を校正しておられました。翌朝は一番早く医局に来られていました。しっかりした指導体制に加えて、医局のレクリエーション(花見、野球大会、海水浴、麻雀大会)にも積極的に参加され、医局員の絆を強くしていただきました。毎年20人以上の入局があったのも、先生のお人柄によるものと推察いたします。県内に限らず県外も含め、多くの関連病院に医局員を派遣され、地域医療に貢献されました。

その後、医学部長を2期、4年間務められ、長崎大学医学部全体の進歩に貢献されました。6年一貫教育、同窓会館の建設、学生用としての体育館や講義実習室の建設などの業績を残されました。

腎臓班の研究の指導では、臨床的にはネフローゼ症候群、IgA腎症、急速進行性糸球体腎炎、腹膜透析の研究を、基礎的には第二病理学教室の故田口 尚教授との臨床病理学的研究共同研究や組織細胞生物学教室の小路武彦教授との腎組織の遺伝子発現の共同研究をご指導いただきました。また、衛生学教室の斎藤 寛教授(後に長崎大学学長)との共同で長崎県対馬のカドミウム汚染地区の検診結果を慢性カドミウム中毒研究班の会長として取り纏めをなさいました。

日本腎臓学会では、昭和61年に第16回西部学術大会長をなさいました。昭和63年から8年間理事となられ、平成1年11月10日～平成4年12月4日は学術委員会、平成4年11月4日～平成7年3月31日は財務委員会をお務めになり、日本腎臓学会に貢献なさいました。さらに東京慈恵会医科大学の故上田 泰教授が班長をなさった厚生省特定疾患「ネフローゼ症候群」調査研究班の班員として、また順天堂大学医学部の故大野丞二教授(後に小出 輝教授)が班長をなさった厚生省特定疾患「進行性腎障害」調査研究班の班員として、さらに筑波大学医学部の故東条静夫教授が班長をなさった厚生省特定疾患「進行性腎障害」調査研究班の班員として貢献され、私達をご指導いただきました。慢性腎不全の研究・治療に関しては、腎疾患治療部の血液浄化療法部の部長をお務めになり、泌尿器科学教室との共同運営をご指導になりました。筆者は腎疾患治療部(後の血液浄化療法部)の副部長(准教授)を15年間務めさせていただきました。

御退官後も長崎短期大学の教授職や後輩の病院の名誉院長をお務めになり、後輩や若い医療従事者の育成に力を注いでいらっしゃいました。平成21年には以上のような業績により、瑞宝中綬章を受章されています。

先生は絵が大変お上手で、先生のための第六代教授を引き継がれた河野 茂教授(現：長崎大学副学長)の年報の表紙は先生の素晴らしい絵で飾られていましたが、平成28年の年報の絵が最後となってしまいました。先生の御逝去は本当に寂しい限りです。先生にご指導いただいた後輩は、先生の御意思を継いでその御恩に報いたいと存じます。

これまでのご指導に感謝申し上げ、心からご冥福をお祈り申し上げます。